



エコアクション21[®]
認証番号0011152

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間 2023年10月1日～2024年9月30日



発行 2025年2月1日
株式会社 小谷商事

目次

1. 環境経営方針	3
2. 組織の概要	4
1)組織概要に関する情報	4
2)許可内容・品目及び許可番号一覧	5
3)施設等の概要	6
4)廃棄物の収集運搬量・処分量(2020年度)	7
5)処理工程図	8
6)保有施設	9
7)資格者	9
3. 対象範囲	10
4. 推進組織	11
5. 環境経営目標	12
6. 環境経営活動計画	14
7. 環境経営目標の実績及び評価	15
8. 次年度の取組内容	17
9. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無	17
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	18
11. 優良産業廃棄物処理業者認定制度	18
12. 地域貢献活動について	18

1. 環境経営方針

環境経営方針

[基本理念]

社会経済活動において役割を終えたもの、不要になったものを再び資源循環に戻す。持続可能な社会の実現のために、無駄と思えるような仕事でも努力を惜しまず、日本の未来・地球の未来のために責任を持って取り組む企業となる。

[経営理念]

1. リサイクルを通じて環境保全・経済活動の循環に貢献する。
2. 地域に根付いた企業となる。
3. 人がやらないことをする。

[社是]

感謝 誠実 努力 思いやり

[行動指針]

- 1, 当社の活動に関わる環境影響を最小限に抑え、委託された産業廃棄物をより多くリサイクルできるように
 に全従業員で努力し、環境経営マネジメントの継続的改善を図ります。
- 2, 当社の活動に関わる環境関連法規及びその他の要求事項を順守します。
- 3, 当社の活動に関わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとし取り組みます。
 - (1)二酸化炭素排出量の削減
 - (2)廃棄物の削減およびリサイクル率の向上
 - (3)水使用量の削減
- 4, 全従業員が当社の活動の意義を理解し、各々が自主的に環境目標達成のために行動できるように周知徹底し、自己啓発に努めます。

制定日 2015年8月1日

改訂 2023年2月7日

株式会社 小谷商事
代表取締役 小谷鉄平

2.組織の概要

1)組織の概要

事業所名 株式会社 小谷商事

代表者 小谷鉄平

所在地

名称	施設	住所
本社・第1工場	積替え保管施設	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区上流町2丁目16番地 TEL052-353-3913 FAX052-353-3440
第2工場	中間処理施設 切断	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区上流町2丁目18番地1
金属スクラップヤード	有価物保管場所	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区上流町2丁目17番地
港工場	中間処理施設 破碎・圧縮梱包 破碎(蛍光管に限る) 積替え保管施設 銅線ナゲット加工施設	〒455-0016 愛知県名古屋市港区河口町2番17号

環境管理責任者 代表取締役 小谷鉄平

連絡先 052-353-3913

E-mail teppei_kotani@hotmail.co.jp

資本金 10,000,000円

創業 昭和29年4月

設立 平成3年4月23日

売上高 444百万円

事業内容

産業廃棄物収集運搬業
特別管理産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物中間処理業
金属スクラップ卸売業

従業員数

23名(2025年1月現在)



2)許可内容・品目及び許可番号一覧

	処分			収集運搬							(積替保管 名古屋市)
	切断	圧縮梱包	破碎 (水銀使用 製品産業 廃棄物)	名古屋市	愛知県	岐阜県	三重県	滋賀県	静岡県	長野県	
廃プラスチック類	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
紙くず	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	
木くず	●		●	○	○	○	○	○	○	○	
繊維くず	●		●	○	○	○	○	○	○	○	
金属くず	●	●	●(△)	○	○	○	○	○	○	○	○
ガラスくず・陶磁器くず 及びコンクリートくず	●		●(△)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
がれき類	●		●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
廃油				○	○	○	○	○	○	○	
特別管理産業廃棄物 引火性廃油・廃酸 廃アルカリ					○	○	○	○	○	○	

- 石綿含有産業廃棄物を除く
 - ◎石綿含有産業廃棄物を含む
 - △廃蛍光管に限る
- } 水銀使用製品産業廃棄物を除く
- } 水銀使用製品産業廃棄物を含む

許可の種類	許可の範囲	許可番号	更新年月日	有効期限
収集運業業 ()内は特管	名古屋市	06410056710	令和5年12月15日	令和12年11月30日
	愛知県 (特管)	02300056710 (02350056710)	平成30年12月11日 (令和6年2月20日)	令和7年12月10日 令和13年1月30日
	岐阜県 (特管)	02100056710 (02150056710)	令和6年2月22日 (令和5年2月20日)	令和13年2月17日 (令和10年2月19日)
	三重県 (特管)	02400056710 (02450056710)	令和5年11月6日 (令和5年3月14日)	令和12年10月23日 (令和10年3月14日)
	静岡県 (特管)	02201056710 (02251056710)	令和3年5月22日 (令和5年3月16日)	令和10年5月21日 (令和10年3月15日)
	滋賀県 (特管)	02501056710 (02551056710)	令和元年10月19日 (令和5年2月27日)	令和8年10月18日 (令和10年2月26日)
	長野県 (特管)	2009056710 (2059056710)	令和4年11月18日 (令和4年11月18日)	令和9年11月17日
処分業	名古屋市	06420056710	令和5年12月15日	令和12年11月30日

3)施設等の概要

本社・第1工場(積替え保管施設)	
保管場所	名古屋市中川区上流町2丁目16番地
面積	30.1㎡
種類	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む) 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず及びコンクリートくず(石綿含有産業廃棄物を含む) がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む)
保管上限	28.2㎡

第2工場(中間処理施設)	
設置場所	名古屋市中川区上流町2丁目18番地1
設置年月日	2008年2月23日
面積	323.38㎡
処理方法	切断
処理品目	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く) 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず及びコンクリートくず(石綿含有産業廃棄物を除く) がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く) 以上7種類
処理能力	43.8t/1日(8時間)

金属スクラップヤード	
所在地	名古屋市中川区上流町2丁目17番地
面積	224.69㎡

港工場(中間処理施設、積替え保管施設、銅線ナゲット加工施設)	
設置場所	名古屋市港区河口町2番17号
設置年月日	2020年7月6日
面積	2720.29㎡
処理方法	破砕
処理品目	廃プラスチック(石綿含有産業廃棄物を除く) 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず及びコンクリートくず(石綿含有産業廃棄物を除く) がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く)
処理能力	廃プラ1.68t/日(8時間)/紙くず1.52t/日(8時間)/木くず1.92t/日(8時間) 繊維くず1.12/日(8時間)/ガラ陶・金属くず2.16t/日(時間)/がれき2.16t/日(8時間)

設置場所	名古屋市港区河口町2番17号
設置年月日	2021年12月9日
面積	2720.29㎡
処理方法	圧縮梱包
処理品目	廃プラスチック(石綿含有産業廃棄物を除く) 紙くず 金属くず
処理能力	廃プラ37.44t/日(8時間)/紙くず33.68t/日(8時間)/金属くず196.16t/日(8時間)

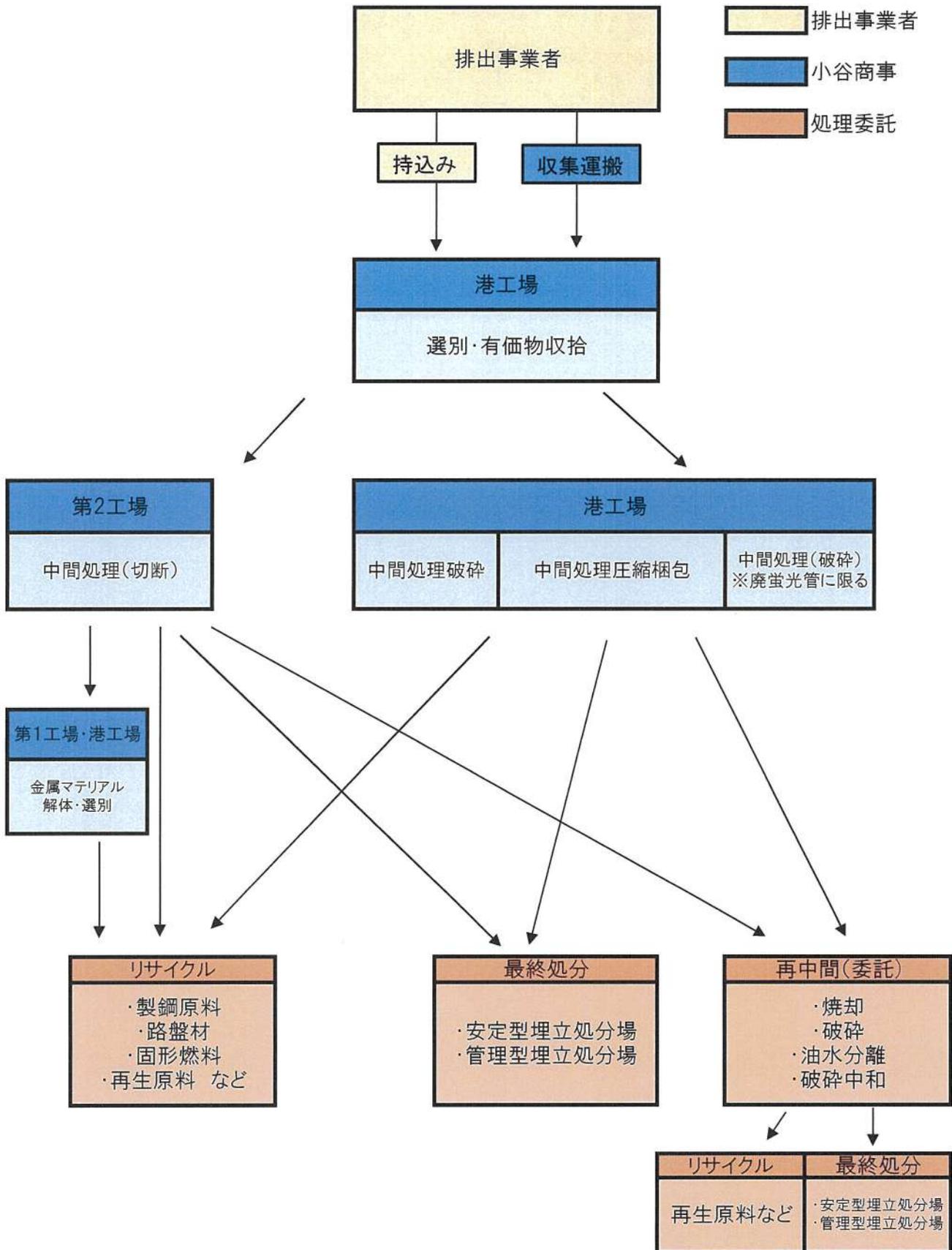
設置場所	名古屋市港区河口町2番17号
設置年月日	2020年7月6日
面積	2720.29㎡
処理方法	破碎廃蛍光管に限る)
処理品目	金属くず(廃蛍光管に限る)、ガラスくず及び陶磁器くず(廃蛍光管に限る) 以上2種 以上2種類(水銀使用製品産業廃棄物を含む)
処理能力	1.9t/日(8時間)

保管場所	名古屋市港区河口町2番17号
面積	76.2㎡
種類	廃プラスチック類 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず がれき類
保管上限	51.5㎡

4) 廃棄物の収集運搬量・処分量(2023年度)

2021年度 収集運搬量・処分量	
産業廃棄物の収集運搬量	2323.99t/年
特別管理産業廃棄物の収集運搬量	7.41t/年
産業廃棄物の処分(中間処理)量	2444.34t/年

5) 処理工程図



6)保有施設

①運搬車両

種類及	最大積載量	台数
キャブオーバ(ユニック車)	7t	3台
キャブオーバ(ヒアブ車)	4t	1台
脱着式装置付コンテナ専用車	4t	2台
キャブオーバ(ユニック車)	3t	1台
キャブオーバ(平ボディ)	2t	1台
キャブオーバ(パワーゲート車)	2t	2台
	合計	11台

②処理施設

施設の種類および名称	能力	台数
大型スクラップシャー	105型800t	1台
銅線剥離機	18kw	1台
廃蛍光管クラッシャ	0.7kw	1台
アリゲーターシャー	5.5kw	1台

③機器

種類及び名称	能力	台数
三菱フォークリフト	2.5t	1台
三菱フォークリフト	0.9t	1台
トヨタフォークリフト	3.0t	1台
日立バックホー(1100φマグネット付)	0.7m ³	1台
日立バックホー	0.25m ³	1台
コベルコバックホー	0.25m ³	1台
トラックスケール	40t	1台
トラックスケール	50t	2台
1100φマグネット天井クレーン	2.8t	1台
1300φマグネット天井クレーン	4.8t	1台

7)資格者

資格名	人数
普通自動車	14名
大型自動車	10名
大型特殊	1名
危険物乙	1名
危険物丙	1名
ガス溶接	2名
フォークリフト	12名
小型移動式クレーン	10名
5t未満天井クレーン	6名
玉掛け	10名
車両系建設機械(整地)	9名
けん引	1名
職長安全責任者	2名
主任計量者	2名



3. 対象範囲

対象範囲は全組織・全活動とする

①サイト

本社・第1工場



第2工場



港工場



金属スクラップヤード



②事業内容 活動の範囲

産業廃棄物収集運搬業



産業廃棄物処分業



金属スクラップ卸売業



特別管理産業廃棄物
収集運搬業



③正社員数

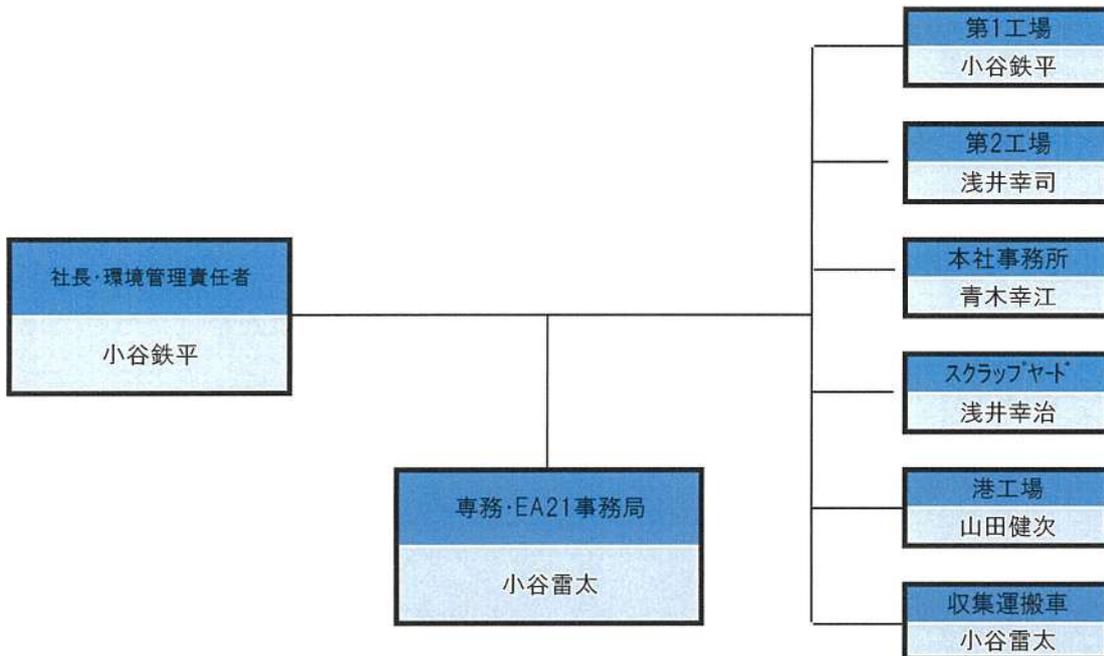
正社員23名

④環境活動レポートの対象範囲

活動期間は2023年10月から2024年9月とし2025年2月に環境活動レポートを発行。
次年度は2024年10月から2025年9月とし、2月ごろにレポートを作成・公表します。

4. 推進組織

1) 組織図



2) 役割責任

役職	役割・責任・権限
社長 環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針を定める ・環境管理責任者を定める ・資源(人員・設備・費用)の準備 ・全体の取組状況の評価と見直し ・教育の実施、環境目的及び環境管理システムの承認 ・実施状況の確認 ・環境活動レポートの確認 ・環境活動の取組結果を確認
専務 EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・文書の作成管理 ・システム運営上の事務管理 ・環境管理活動計画実施の実績集計 ・環境活動レポートの作成
各リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ・環境目標達成するための活動の推進・提案
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・決められたことを守り、自主的・積極的な環境活動への参加

5.環境経営目標3か年計画

環境経営目標・取組の基本方針

事業活動が環境にどのような影響を与えているかを把握・評価をし、環境への影響が大きいと考えられる二酸化炭素排出量削減(電気使用量、燃料使用量)、水使用量の削減、廃棄物排出量の削減、廃棄物リサイクル率向上などに重点を置いて取組みます。廃棄物の性状に適した処理方法(破碎・切断・圧縮梱包)について、お客様に提案し、新規顧客拡大にも努めていきたい。

(1)環境経営目標

環境経営目標の設定(2023年度まで)

取組項目 2020年度実績	基準数値	2021年度目標	2022年度目標	2023年度目標
二酸化炭素排出量※1 142,138.61kg-CO ₂	削減率	1%	2%	3%
	kg-CO ₂ /t	55.81	55.25	54.69
電力使用量の削減 64,763kWh	削減率	1%	2%	3%
	kWh/t	25.75	25.49	25.24
燃料(ガソリン)使用量の削減 3,311.09ℓ	削減率	1%	2%	3%
	ℓ/t	1.32	1.31	1.29
燃料(軽油)使用量の削減 41,888.3ℓ	削減率	1%	2%	3%
	ℓ/t	16.65	16.48	16.32
水使用量の削減 172m ³	削減率	1%	2%	3%
	m ³ /t	0.068	0.0677	0.0670
廃棄物排出量の削減 800kg	削減率	1%	2%	3%
	kg/t	0.415	0.411	0.407
廃棄物リサイクル率向上※2 91.7%	向上率	1%	2%	3%
	%	92.0	92.7%	93.7%
収集運搬量の拡大 2457.45t	増加量	30t	50t	100t
	t	2457.45	2487.45	2507.45
中間処理量の拡大 2515.17t	増加量	30t	50t	100t
	t	2515.17	2545.17	2565.17

※1 二酸化炭素排出係数0.441kg・CO₂/kWh(2020年度)を使用

※1 2020年度二酸化炭素排出量 142,138.61kg-CO₂

※2 2020年度中間処理処分量2515.17t 内再資源化t,118.02

※ 基準数値の設定にあたり用いた分母の「t」は中間処理量(2020年度実績 2515.17t)。

※ 化学物質の使用なし

環境経営目標の設定(2024年度～)

取組項目	基準数値 2023年度実績	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
二酸化炭素排出量※1	171,582.29 kg-CO ₂	1% 169866.47	2% 168150.64	3% 166434.82
電力使用量の削減	64,557 kWh	1% 63911.43	2% 63265.86	3% 62620.29
燃料(ガソリン)使用量の削減※2	1,376.86 ℓ/台	1% 1363.10	2% 1349.33	3% 1335.56
燃料(軽油)使用量の削減※3	4,476.82 ℓ/台	1% 4432.05	2% 4387.29	3% 4342.52
水使用量の削減	184 m ³	1% 182.1600	2% 180.3200	3% 178.4800
廃棄物排出量の削減	720 kg	1% 712.800	2% 705.600	3% 698.400
廃棄物リサイクル率向上	81.8 %	1% 82.8%	2% 83.8%	3% 84.8%
収集運搬量の拡大	2,323.99 t	1% 2347.23	2% 2370.47	3% 2393.71
中間処理量の拡大	2,615.17 t	1% 2641.32	2% 2667.47	3% 2693.63

※1 二酸化炭素排出係数0.441kg・CO₂/kWh(2020年度)を使用

※2 2023年度ガソリン使用量6884.32でガソリン使用車 台数5台

※3 2023年度軽油使用量49245.05ℓで軽油使用車 台数11台

6. 環境経営活動計画

項目	計画内容	責任者
二酸化炭素排出量の削減	2020年度を基準年度として、二酸化炭素排出量を産業廃棄物中間処理量あたり3%削減する 電気・燃料使用量に準ずる	小谷鉄平
電気使用量の削減	2020年度を基準年度として、電気使用量を産業廃棄物中間処理量あたり3%削減する 1) 照明使用場所・時間の管理 2) 冷暖房設定温度の管理 3) 空調フィルターの清掃 4) 中間処理にかかる時間が短縮できるように効率よく作業を行う 5) 電線ナゲット加工における稼働時間の短縮	各工場責任者
燃料使用量(ガソリン)の削減	2020年度を基準年度として、ガソリン使用量を産業廃棄物中間処理量あたり3%削減する 1) 毎月の使用量の管理 2) エコドライブの実施 3) 燃費の管理 4) 車両の日常点検を実施し、不良箇所がある場合は速やかに修理する	小谷雷太
燃料使用量(軽油)の削減	2020年度を基準年度として、軽油使用量を産業廃棄物中間処理量あたり3%削減する 1) 毎月の使用量の管理 2) エコドライブの実施 3) 燃費の管理 4) 車両の日常点検を実施し、不良箇所がある場合は速やかに修理する	小谷雷太
水使用量の削減	2020年度を基準年度として、水使用量を産業廃棄物中間処理量あたり3%削減する 1) 毎月の水使用量の把握 2) 節水に努める 3) 漏水点検をする	各所担当者
廃棄物排出量の削減	2020年度を基準年度として、廃棄物を産業廃棄物中間処理量あたり3%削減する 1) 毎月の廃棄物量の把握 2) リサイクル・分別の徹底 3) コピー用紙の裏紙利用(機密書類は裏紙利用しない)	各事務所担当者
廃棄物リサイクル率向上	2020年度を基準年度として、廃棄物リサイクル率を3%向上させる 1) 固形燃料(RPF)向けを増やす 2) マテリアルリサイクルの割合を増やす 3) 細かな選別を心掛ける	各工場責任者
収集運搬量の拡大	2020年度を基準年度として、収集運搬量を100t増加する 1) 回収ルート効率化し、1日で運べる量を増やす。 2) 優良認定事業者を生かして、新規契約数を増やす。 3) 車両・運転手の増員を図り、業務拡大に対応できるようにする。	小谷鉄平
中間処理量の拡大	2020年度を基準年度として、中間処理量を100t増加する 1) 優良認定事業者を生かして、新規契約数を増やす。 2) 新たな中間処理施設を増設し、処理能力の拡大を図る。 3) 人員を追加し、持込にも対応できるように組織を強化する。	小谷鉄平

7.環境経営目標の実績及び評価

対象期間は2023年10月～2024年9月です。

取組項目	目標	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減	54.14kg-CO ₂ /t	70.20kg-CO ₂ /t	77.1%	×
	本年度は電力・ガソリン使用量は昨年と比べ増加したことにより、二酸化炭素の排出量が全体で増加した。それに加えて中間処理量も減少したことにより目標の達成には至らなかった。			
電気使用量の削減	24.98kwh/t	26.41kwh/t	94.6%	×
	会社内の電気設備等に変更はなかったが、電気使用量がわずかに増加してしまった。夏の酷暑の影響も考えられる。熱中症対策としての対応なので、致し方ないと考えている。			
燃料使用量の削減 (ガソリン)	1.28L/t	2.82L/t	45.4%	×
	昨年と比べるとガソリンの使用量は大幅に増加した。その原因としては、遠方の現場が増えたことが考えられる。			
燃料使用量の削減 (軽油)	16.15L/t	20.15L/t	80.0%	×
	ガソリンは増加したが、軽油の使用量はわずかに減少した。昨年と比較して収集運搬量が減少しているのが理由だ。昨年までは、ほとんどが自社による出荷が多かったのだが、収集運搬業者を利用した出荷に切り替えたことによる影響が大きい。			
水使用量の削減	0.0663m ³ /t	0.0753m ³ /t	88.0%	×
	水使用量は昨年と比較して減少に転じた。ただ中間処理量の減少によって、目標達成には至らなかった。			
廃棄物排出量の削減	0.403kg/t	0.344kg/t	117.0%	○
	廃棄物の排出量は唯一目標を達成することが出来た。引き続き分別などを徹底して削減を継続したい。			
廃棄物リサイクル率向上	94.70%	81.8%	下回る	×
	廃棄物リサイクル率については、目標を大幅に下回る結果となった。本年度より処理フローを変更し、安定型埋立処分場への出荷を増やしたことが要因である。これも業務効率化のための変更なので仕方ないが、今後選別の強化などで、本年度よりはリサイクル率が上がるように努めたい。			

<p>収集運搬量の拡大</p>	2557.45t	2323.99t	90.9%	×
<p>収集運搬量は減少した。昨年度と比較すると金属くず・木くずは増加しているものの、廃プラ・ガラ陶・混合廃棄物の運搬量の減少幅が大きかった。実感としては減っている感じはないが、来年度はもっと増やせるように新規顧客の獲得にも努めていきたい。</p>				
<p>中間処理量の拡大</p>	2615.17	2444.34t	93.5%	×
<p>中間処理量についても、収集運搬量と同様に減少した。収集運搬とほぼ同様ではあるが、金属くずの増加と売却単価の上昇で利益面では昨年を大きく上回る結果となつたので良かった。ただ相場に助けられた面も大きいので、来期単価は下落傾向にあるので、気を引き締めて活動を続けたい。</p>				

※1 二酸化炭素排出係数0.441kg・CO₂/kWhを使用しています。

※2020年度二酸化炭素排出量140,390.01kg-CO₂

※2023年度中間処理量2444.34t 内リサイクル化1999.37t

※基準数値の設定にあたり用いた分母のtは中間処理量。

※達成率は目標÷実績で計算。

8. 次年度の取組内容

◎これまでの活動を継続しながら、以下の活動を強化していきたい。

電気使用量の削減

電気使用割合が大きい破碎機や圧縮機の稼働を常時稼働ではなく、これまでと同様にある程度の荷物が溜まったら稼働させるなど、効率を重視して取組みを強化したい。

燃料使用量の削減

来期はトラックの増車が予定されているので、軽油については削減は難しいと考えている。しかしながら燃料価格の高騰など影響も大きいのでアイドリングストップなど基本的な環境活動は引き続き強化していきたい。

水道使用量の削減

過去にはクーリングタワーの水漏れで水道資料量が増大したことがあったので、夏が始まる前に設備の漏水チェックを行い、無駄な消費がなくなるように対策を強化したい。

廃棄物排出量の削減

社内から出る廃棄物に関しても、分別の徹底やミスプリントの減少、裏紙使用など来期も排出量が削減できるように取組みを強化していきたい。

リサイクル率の向上

今年度は、排出のフローを変更したのでこれまでよりもリサイクル率が低下した。来年度が今年と比較してリサイクル率が上がるように、特にRPF向け・有価物の選別を特に力を入れて強化していきたい。

収集運搬量の拡大

来期はトラックも増車になるので、人員増強も含めて、大きな案件も積極的に仕事が回せるように社内組織も強化していきたい。全社にドライブレコーダーも設置する予定なので、運搬ルートの検証などに生かしていきたい。

中間処理量の拡大

新規顧客の拡大や特に重量比率は低いですが、2027年に製造が中止される蛍光管の処理量が増加傾向にあるので、積極的に受入れて、社内での受け入れ態勢も強化していきたい。

9. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

(1) 適用となる主な環境法規

- ・環境基本法
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・大気汚染防止法
- ・悪臭防止法
- ・振動規制法
- ・騒音規制法
- ・自動車NOx・PM法
- ・高圧ガス保安法
- ・フロン排出抑制法
- ・グリーン購入法
- ・家電リサイクル法
- ・消防法
- ・労働安全衛生法
- ・環境保全条例(名古屋市)
- ・産業廃棄物等の適正な処理及び資源化の促進に関する条例(名古屋市)

(2) 違反、訴訟の有無

上記環境関連法については、チェックリストにより、確実に法規を遵守していることを確認しました。また過去3年間、関係各機関から特に指摘・指導はなく、訴訟も1件もありませんでした。

2024年2月1日

10.代表者による全体評価と見直しの結果



本年度は経理的には、過去最高の売上・利益を記録した。会社にとっては非常に有難いことではあるが、実績のデータから考察すると、単純に喜べる状況で無いことがわかる。昨年度は資源高による金属価格の高騰による影響を大きく受けた中で、金属の回収量が増やせた事は良かった。中間処理残渣のフローを他社の収集運搬業者を使い安定型埋立処分場への出荷に変換したことにより、効率化や経費削減により利益率の向上にも繋がった。その一方で、その他産業廃棄物に関しては減少に転じている品目も多いので、来年度、金属相場が弱い中で、どのように回収量を増やし、利益につなげるかが重量になってくる。全社あげて来年度取組みを強化していきたい。

株式会社小谷商事 代表取締役 小谷鉄平

11.優良産業廃棄物処理業者認定制度

特別管理産業廃棄物の収集運搬業については、愛知県以外はまだ優良認定の受けていないので、次回更新時には優良認定での更新を予定している。

12.地域貢献活動について

毎週金曜日は、会社周辺での構外清掃日としている。特に本社では地域住民の協力なくしては事業の継続は難しいので、少しでも地域に貢献できるように努めていきたい。

